

平成26年10月17日

中央新幹線（品川・名古屋間）工事実施計画（その1）の認可について

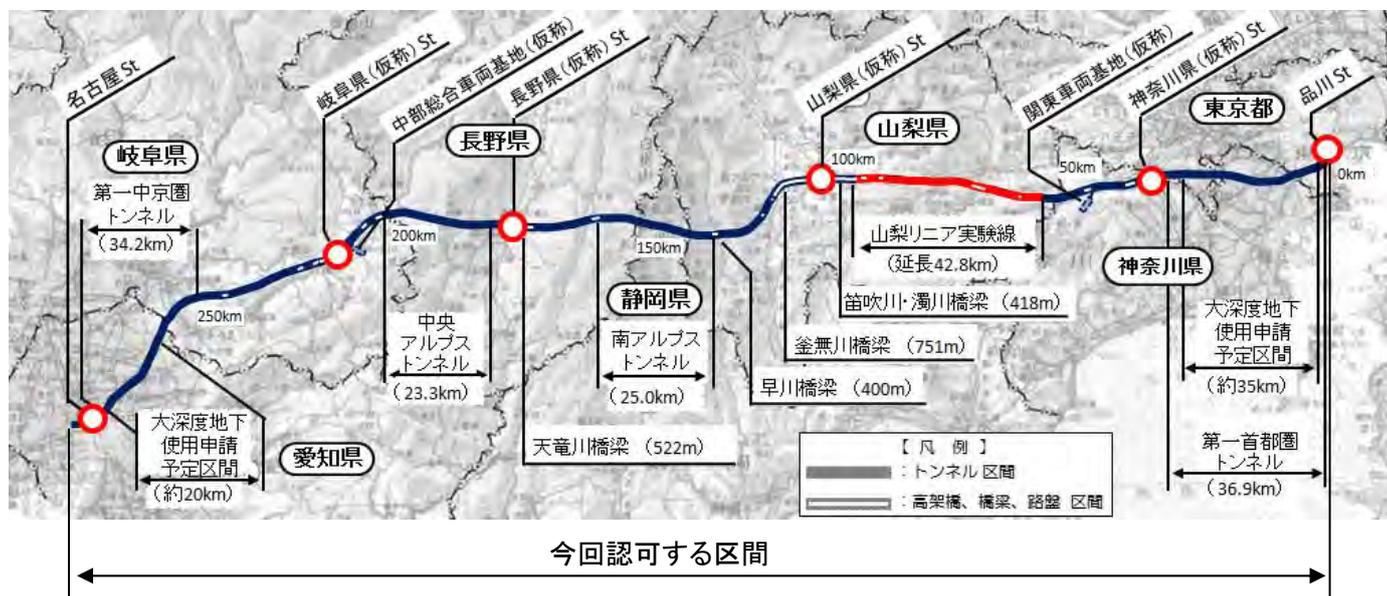
平成26年8月26日に東海旅客鉄道株式会社より申請のあった中央新幹線（品川・名古屋間）の工事実施計画（その1）については、本日認可を行う。

- ・ 区 間 : 品川・名古屋間
- ・ 工事延長 : 約285.6km
- ・ 工事費 : 約4兆158億円

（品川・名古屋間の総事業費約5兆5,235億円のうち、今回認可した土木構造物関係分）

- ・ 走行方式 : 超電導磁気浮上式方式
- ・ 最高設計速度 : 505km/h
- ・ 所要時間 : 最速 40分程度
- ・ 工事の完成予定時期 : 平成39年
- ・ 認可内容 : 土木構造物関係分

（開業関係設備分は「その2」として今後申請・認可予定）



中央新幹線品川・名古屋間の工事実施計画(その1)※の概要

※ 今回認可するのは、トンネル、橋梁等の土木構造物を中心とした事項についての計画である。

- 工事の区間 品川・名古屋間
- 駅の位置
 - 品川駅(地下) (併設:東京都港区港南)
 - 神奈川県(仮称)駅(地下) (新設:神奈川県相模原市緑区橋本)
 - 山梨県(仮称)駅(地上) (新設:山梨県甲府市大津町字入田)
 - 長野県(仮称)駅(地上) (新設:長野県飯田市上郷飯沼)
 - 岐阜県(仮称)駅(地上) (新設:岐阜県中津川市千旦林字坂本)
 - 名古屋駅(地下) (併設:愛知県名古屋市中村区名駅)
- 車両基地の位置
 - 関東車両基地(仮称) (新設:神奈川県相模原市緑区鳥屋)
 - 中部総合車両基地(仮称) (新設:岐阜県中津川市千旦林)
- 線路延長

285km605m	内訳	トンネル	246.6km(約86%)
		高架橋	23.6km(約8%)
		橋梁	11.3km(約4%)
		路盤	4.1km(約2%)
- 工事方法
 - ・ 最小曲線半径 基本 8,000m
ただし、地形上等のためやむをえない場合 800m
 - ・ 最急勾配 40‰
 - ・ 軌道の中心間隔 5.8m以上(ガイドウェイ中心線間隔) 等
- 工事予算
 - 4兆 158億2,000万円(今回認可対象工事分)
 - (参考)総工事費 5兆5,235億5,000万円(車両費を含む。山梨リニア実験線既設分は除く。)
- 工事の着手及び完了の予定時期

着手予定	認可の日
完了予定	平成39年

○ 主なトンネル

区間(仮称)	名称(仮称)	延長(20,000m以上)
品川駅・神奈川県駅	第一首都圏隧道	36,924m(うち約35kmは大深度の予定)
山梨県駅・長野県駅	南アルプス隧道	25,019m
長野県駅・岐阜県駅	中央アルプス隧道	23,288m
岐阜県駅・名古屋駅	第一中京圏隧道	34,210m(うち約20kmは大深度の予定)

○ 主な橋梁

区間(仮称)	名称(仮称)	延長(400m以上)
神奈川県駅・山梨県駅	笛吹川・濁川橋梁	418m
山梨県駅・長野県駅	釜無川橋梁	751m
	早川橋梁	400m
	天竜川橋梁	522m



平成 26 年 10 月 17 日

各 位

会 社 名 東海旅客鉄道株式会社
代表者名 代表取締役社長 柘植 康英
(コード番号 9022 東証、名証各第1部)
問合せ先 執行役員広報部長 江尻 良
(TEL. 052-564-2549)

中央新幹線品川・名古屋間の工事実施計画（その1）の認可について

当社は、平成 26 年 8 月 26 日に全国新幹線鉄道整備法第 9 条に基づき、国土交通大臣に認可申請を行っていた中央新幹線品川・名古屋間の工事実施計画（その1）について、本日認可を受けました。

認可された内容につきましては認可申請の内容と同じですので、詳細は別添の「中央新幹線品川・名古屋間の工事実施計画（その1）の認可申請について」（平成 26 年 8 月 26 日付開示資料）をご参照ください。

平成 26 年 8 月 26 日

各 位

会 社 名 東海旅客鉄道株式会社
代表者名 代表取締役社長 柘植 康英
(コード番号 9022 東証、名証各第 1 部)
問合せ先 執行役員広報部長 江尻 良
(TEL. 052-564-2549)

中央新幹線品川・名古屋間の工事实施計画（その 1）の認可申請について

本日の取締役会において、全国新幹線鉄道整備法第 9 条（以下「全幹法」という。）に基づき、中央新幹線品川・名古屋間の工事实施計画について、国土交通大臣に認可申請することを決定しましたので、お知らせ致します。

◎全幹法第 9 条第 1 項及び第 2 項並びに全幹法施行規則第 2 条第 1 項及び第 2 項に定められた事項に基づき申請致します。

- ・概要は別紙「中央新幹線品川・名古屋間の工事实施計画（その 1）の概要」をご参照ください。
- ・今回は、工事实施計画（その 1）として、隧道、橋梁、停車場等の土木構造物を中心に申請し、電灯・電力線路や車両等の開業設備については、工事内容が確定した段階で、工事实施計画（その 2）として認可申請する予定です。

◎品川・名古屋間の工事費は、工事实施計画（その 1）として 4 兆 158 億円の計画です。これに、工事实施計画（その 2）として認可申請予定である開業設備の現時点の見込み額を合算した総工事費は、5 兆 5,235 億円となります。

- ・品川・名古屋間の総工事費は、平成 21 年 12 月の全幹法第 5 条に基づく調査報告での 5 兆 4,300 億円に対し、それ以降、工事内容の精査を行い、誘導集電の採用等の高性能設備の導入や労務単価の上昇等による増額を見込む一方、コストダウンの取り組みの成果等を見込んだ結果として、935 億円増加しました。
- ・この間、経営実績は堅調に推移しており、引き続き、経営努力を積み重ねて、健全経営を堅持して計画を完遂していく考えです。

中央新幹線品川・名古屋間の工事实施計画（その1）の概要

1. 区 間 品川・名古屋間
2. 駅の位置
- | | |
|-----------|--------------------|
| 品川駅 | (併設：東京都港区港南) |
| 神奈川県(仮称)駅 | (新設：神奈川県相模原市緑区橋本) |
| 山梨県(仮称)駅 | (新設：山梨県甲府市大津町字入田) |
| 長野県(仮称)駅 | (新設：長野県飯田市上郷飯沼) |
| 岐阜県(仮称)駅 | (新設：岐阜県中津川市千旦林字坂本) |
| 名古屋駅 | (併設：愛知県名古屋市中村区名駅) |
3. 車両基地の位置
- | | |
|--------------|-------------------|
| 関東車両基地(仮称) | (新設：神奈川県相模原市緑区鳥屋) |
| 中部総合車両基地(仮称) | (新設：岐阜県中津川市千旦林) |
4. 線路延長 285.6 km
- (構造物種別)
- | | |
|------|-------------------|
| トンネル | : 246.6 km (約86%) |
| 高架橋 | : 23.6 km (約8%) |
| 橋りょう | : 11.3 km (約4%) |
| 路盤 | : 4.1 km (約2%) |
5. 線路の概要
- | | |
|--------|---------|
| 最小曲線半径 | 8,000 m |
| 最急勾配 | 40‰ |
| 軌道中心間隔 | 5.8 m以上 |
6. 工事費 4兆158億円
- (現時点での総工事費は5兆5,235億円(車両費を含む。山梨リニア実験線既設分は除く。))
7. 完成予定時期 平成39年

中央新幹線線品川・名古屋間（延長 285km605m）工事費予算書

項 目	金 額	備 考
	千円	
用 地 費	342,040,000	
路 盤 費	110,090,000	
橋 梁 費	292,200,000	
隧 道 費	1,621,960,000	
軌 道 費	724,360,000	
停 車 場 費	520,600,000	
車庫・検査修繕施設費	_____	
諸 建 物 費	_____	
電灯・電力線路費	_____	
通 信 線 路 費	_____	
運 転 保 安 設 備 費	_____	
防 護 設 備 費	3,780,000	
連 絡 設 備 費	_____	
電 車 線 路 費	_____	
発 電 所 ・ 変 電 所 費	185,590,000	
小 計	3,800,620,000	
工 事 用 建 物 費	970,000	
工 事 用 機 械 費	13,630,000	
工 事 附 帯 費	200,600,000	
小 計	215,200,000	
計	4,015,820,000	
車 両 費	_____	
合 計	4,015,820,000	
1 km 当たりの工事費 (車両費を除く。)	14,060,000	

※ 消費税は含まない。

※ 現時点での総工事費：5,523,550,000千円（車両費を含む。山梨リニア実験線既設分は除く。）

中央新幹線品川・名古屋間工事実施計画（その1）

1. 路線名 中央新幹線
2. 工事の区間 品川・名古屋間
3. 線路の位置 添付図面のとおり
4. 線路延長 285km605m
5. 停車場の位置

名称	位置	記事
品川	東京都港区港南	品川駅併設
神奈川県（仮称）	神奈川県相模原市緑区橋本	
山梨県（仮称）	山梨県甲府市大津町字入田	
長野県（仮称）	長野県飯田市上郷飯沼	
岐阜県（仮称）	岐阜県中津川市千旦林字坂本	
名古屋	愛知県名古屋市中村区名駅	名古屋駅併設

6. 車庫施設及び検査修繕施設の位置

名称	位置	記事
関東車両基地（仮称）	神奈川県相模原市緑区鳥屋	
中部総合車両基地（仮称）	岐阜県中津川市千旦林	

(山岳トンネル)

大土被りとなる南アルプス隧道（仮称）等については、坑内からの長尺水平ボーリングや先進坑等により地質を確認しながら、適切な工法を用いて施工する計画である。

(トンネル湧水)

水資源に影響を及ぼす可能性のある大井川等については、河川流量観測を実施するとともに、トンネル貫通までの間に、トンネル坑内湧水量と河川流量との関係进行分析し、必要に応じて代替水源の確保を行う計画である。

(建設発生土)

建設発生土については、本事業内での再利用を図る他、関係自治体等の協力を得て他の公共事業や民間事業での有効利用を図るなど、適切に取り扱う計画である。

また、建設発生土の運搬に当たっては、地域住民の生活環境への影響を低減する方法を用いる計画である。

(汚染土壌)

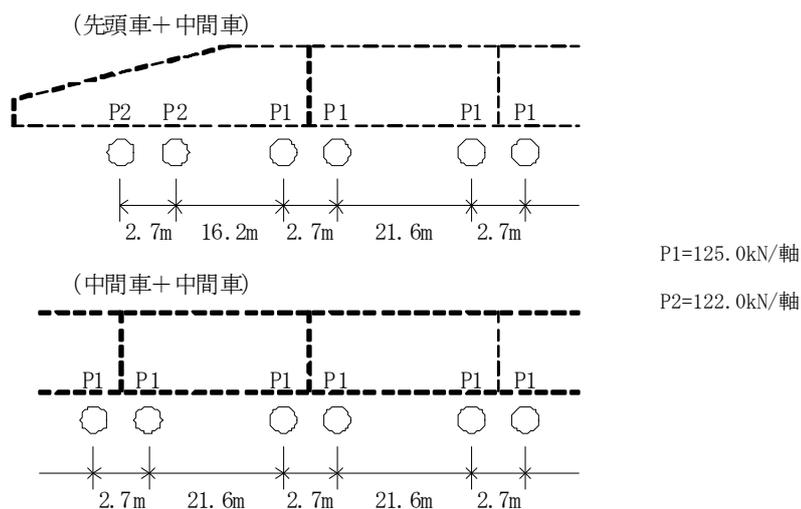
自然由来の重金属等による汚染のおそれのある土壌については、関連法令等に基づき、管理及び処理する計画である。

8. 工事予算 別紙のとおり

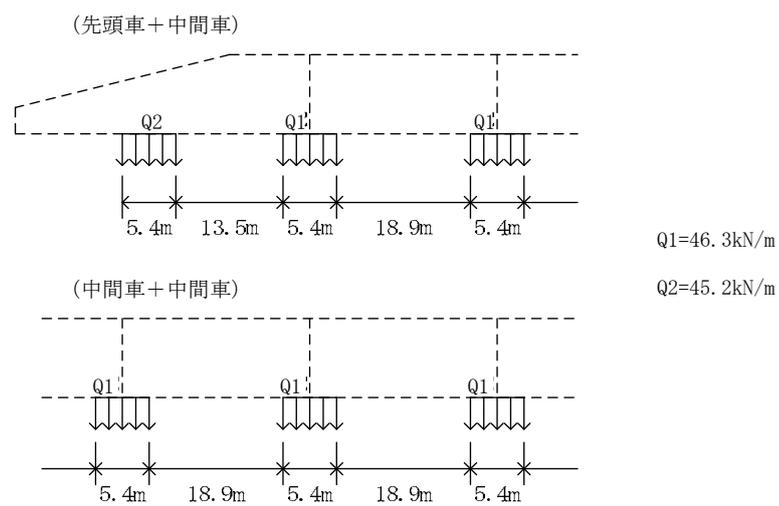
9. 工事の着手及び完了の予定時期

着手予定	認可の日
完了予定	平成39年

(1) 標準列車荷重 (車輪走行時)



(2) 標準列車荷重 (浮上走行時)



別 紙
第 1 号様式

中央新幹線線品川・名古屋間（延長 285km605m）工事費予算書

項 目	金 額	備 考
	千円	
用 地 費	342,040,000	
路 盤 費	110,090,000	
橋 梁 費	292,200,000	
隧 道 費	1,621,960,000	
軌 道 費	724,360,000	
停 車 場 費	520,600,000	
車庫・検査修繕施設費	—————	
諸 建 物 費	—————	
電灯・電力線路費	—————	
通 信 線 路 費	—————	
運 転 保 安 設 備 費	—————	
防 護 設 備 費	3,780,000	
連 絡 設 備 費	—————	
電 車 線 路 費	—————	
発 電 所 ・ 変 電 所 費	185,590,000	
小 計	3,800,620,000	
工 事 用 建 物 費	970,000	
工 事 用 機 械 費	13,630,000	
工 事 附 帯 費	200,600,000	
小 計	215,200,000	
計	4,015,820,000	
車 両 費	—————	
合 計	4,015,820,000	
1 km 当たりの工事費 (車両費を除く。)	14,060,000	

※ 消費税は含まない。

※ 現時点での総工事費：5,523,550,000千円（車両費を含む。山梨リニア実験線既設分は除く。）